

たんねんに・ていねいに  
くらしやしごとを紡ぐすてきな作業

「建築家とすまいをつくる」

---

あなたへのメッセージ

いえ・まち・がーでん  
北野工作室

---

野口志乃

## 建築家とは？施工・工事から独立した第三者としての立場

建築家とは、「単に技術があってや法規に詳しく・プロとして図面を描く人」のことではありません。日本には「建築士」という国家資格があるために、これが「建築家」とまぎらわしく、特にわかりにくくなっています。

「建築士」は建築関係の法規や、技術に関する知識を保証する資格の呼び名で、必ずしも「新しいものを創造する」資格ではありません。だから建築士の資格を持っていても設計は行わず、官公庁や、建設会社の現場管理、大学などの教育機関などで働く方もたくさんいます。これらの方々もそれぞれに社会的・専門的役割を担っていますが、これは「建築家」とは異なります。また設計をしていたとしても、それを建設工事業者やプレハブ・ハウスメーカーの設計部門で行う方も、これは厳密には「建築家」とは言えません。

「建築家」とは、工事業者から独立して設計と工事監理（建物が図面どおりにきちんと建てられているかどうかをチェックする作業）を行ない、その仕事に対して建築主と独立した契約関係を結ぶ人のことです。「建築家」の仕事は、建築主の意図をまず図面として表現し、次には建物としてつくり上げていくことなのです。このプロセスで「建築家」は工事金額が適正か、設計図面どおりに工事が進められているかどうかを判断するのですが、これは「建築家」が施工業者の支配下にあることはできないことです。つまり、施工業者から独立していることはまず、何よりも「建築家」の必要条件であるといえます。「建築家」は設計監理の報酬を建築主から受け取ることによって、建築主を護る立場の人間なのです。

もっとも「建築家」はあくまでも公正な第三者としてふるまうので、時に建築主の側に誤ちがあれば、施工者を擁護する結果になることもあるかもしれません。しかし、建築のアマチュアである建築主がプロである工事業者と契約するという、バランスの難しい状況に際しては、「**建築家はプロとして建築主の利益を代表し、それを護るのを任務とする職業だ**、と言い切って良いかと思えます。このことはすまいや、店舗・小さなアパートなどの事業用建物を建てようとする建築主にとって、特に重要なのではないのでしょうか。大きな建物を建てる大企業などには、往々にして内部に建築専門の知識を持つ部門があり、彼らはプロである施工者と対等のやりとりが可能です。しかし小さな建物の建築主は、一般的には、そのような専門知識を持たない個人のアマチュアである場合が多いからです。

## 建築家とは？一個人としてあなたと向き合う人

もう一つ大切なことは、「建築家」が一個人として自分の仕事に責任を負うということです。これは「建築家」が属する設計事務所の大小に関わりなく言えることでしょう。建築とは本来一品生産で、その一つ一つに異なる条件や建築主の意図を要求されるもの。ですから、どんなに優れた技術や専門的知識を駆使しても、数学のように唯一の正解というものは存在しないのです。**可能性のあるいくつかの答えの中から一つを、建築主の同意を得て選択していく作業は、最終的には建**

建築家個人の人格を賭けた行為となるのです。つまり、それを仕事とする「建築家」の本質は、個人にあるといえます。もしあなたが建物を「個人として」建てようとする時、「建築家」に設計と監理を依頼すれば、その建築家は一個人としてのあなたに、一個人としての自分を賭け・心から向き合い、専門的な助言や技術・サービスを提供することになるのです。

## 建築家と建てる家は何が違う？「分かりにくい差」と「住み心地」の相関性

現代の日本では、住宅などの小さな建物の設計を建築家に頼む方は少ないのが実情です。たしかに建築家に頼まなくても建物を造ることはできますね。特に日本のすまいは、建築家抜きで建てられることがしばしばです。大工さんでも簡単な図面を描いてくれますし、ハウスメーカーも建売住宅もあります。設計と工事をセットで請け負う施工業者さんもいます。「建築家に頼むと何だかお金がかかりそうだし、敷居も高い気がするなあ…」多くのみなさんはこう考えて、建築家を敬遠しているのではないのでしょうか。実際には営業経費や人件費、広告宣伝費や技術開発費に多くの費用を費やしているハウスメーカーの建てる家よりも、建築家の設計する住宅の方がずっと安価な場合も多くあるにも関わらず…。

それならば、なぜ建築家にすまいや小さな建物の設計を頼む方が、少なくはあっても確実にいるのでしょうか？それは自分に本当になじむすまい、しっくり来る建物を望むからではなでしょうか。この希望はシンプルですが、それを実現するのはどんなタイプの建物でも簡単ではありません。特に「本当にしっくり来るもの」を得ることは、現代では昔よりずっと難しくなっている気がします。ライフスタイルは多様化しているはずなのに、自分の本当に求めるものは見つからない…なんだか皮肉な話ですね。

建築家に設計を頼んで建てたものと、工事業者が設計と施工をセットで請け負ったものとは、どこが違うのでしょうか。実は単なる「うつわ」「建物のハードとしての質」ということでは、そう変わりはないともいえます。建築家が設計しても質の高くない建物もあり得ますし、工事業者が設計施工一貫体制で生み出した結果、質の高い建物ができる場合もたくさんあります。では、違いが現れるのは、どこなのでしょう？

「違い」は、その建物が依頼者個人の要求や希望にしっくりと合っているかどうかということつまり「ソフトとしての質」に見られるのです。これを説明するには、個人のくらしや意向が深く関わる住宅を例にとると分かりやすいかもしれません。量産された既製服が体にピッタリ合う方がいるように、ハウスメーカーや建売住宅が自分のくらしやライフスタイルにしっくり来る方もたくさんいると思います。だからこそ、日本の住宅の多くは依然として、それらの方法によって建てられているのでしょう。そのような量産タイプの商品化住宅の中に、大多数をおおむね満足させる、一般的な生活様式にとって優れた製品があるのも事実です。しかし一方で、すまいに思いが強く、特に敏感な方が、ハウスメーカーのラインナップや建売住宅に満足できないのも、これは商品化住宅の宿命で仕方のないことです。商品化住宅は宿命として、一般的な多数のニーズに応えることを目

的とし量産されるため、カバーできない少数の希望がどうしても生じてしまうのです。それらの商品化住宅は一見多種多様に見えますが、その差は商品を上・中・並ノ和風と洋風など、分かりやすいかたちで差別化したものが基本です。最近では、商品化住宅の多様性ももっとずっと細かいのですが、すべてのメニューはすべての組み合わせに対応できるわけではありません。(そもそも「建物を建てる」という膨大な結果選択肢の中で、すべてのメニューなどというものが存在し得ないもの事実です。)自動車のメニューを見るとピンと来るかもしれませんが、形は変わってもエンジンやシャシー、トランスミッションの種類がそれだけあるわけではありません。独自のライフスタイルを持つ方が望む「住み心地」とは、それらのメニュー化しやすい「**分かりやすい差**」よりも、むしろ「**分かりにくい差**」で決まるものなのです。つまり、出窓の有無やクロスの色・外壁の模様の違いなどではなく、壁や空間の配置や材料の質感や手触り、光と影の配分や時間ごとの空気の流れなどの、とても微妙な要素が「住み心地」を左右するカギになることは非常に多く、それらを依頼主である住み手が、適当な言葉で表現し伝えることはなかなか難しいものです。この「**言語化されにくい要素**」を個人と個人が出会う打合せの中で読み取り、形とし、確認・表現し、商品化住宅の応じ切れない「**分かりにくい差**」を実現していくのが**建築家の仕事**だといえるでしょう。

## 建築家は何でも聞いてくれるのか？建築家は「イエスマン」ではない

建築家に設計を依頼する人が、全体の中で少数派なものには、もう一つの理由があります。実は、建築家に依頼することは、時間的にも(考えようによっては)負担を要します。つまり、(これも考えようによっては)けっこう面倒くさいことだからです。**建築家はあなたの言うことを、ただハイハイと聞くとは限りません。つまりイエスマンではありません。**専門家としての経験から、建築家はあなたが明らかにバランスの悪いことや間違ったことを言えば、異論も唱えます。たとえば、カーテンの色や照明器具の形に迷って、あれこれと部屋ごとに変えると、「統一感がない」と言って反対するかもしれません。また、単なる無意味な飾りだけの出窓をつけることを「おすすめできない」と難色を示し続け、それが出窓に憧れ続けたあなたの気に障ってしまうこともあるでしょう。しかし、**建築家は、それが真にあなたのためだと思うからこそ、敢えて心からの真摯な意見を言うのです。**

実は、設計を早く進めるためにはイエスマンでいる方が楽です。依頼主の意見に反対したり議論したりすれば、建築家自身の時間もエネルギーも、それだけ費やされてしまいます。にもかかわらず、建築家が意見を述べるのは、その場しのぎの打合せの円滑さよりも、最終的な結果　つまり建ったすまいの住み心地を真剣に大切にし、その完成と成功を依頼者と共に喜び、長い年月あなたやあなたの家族に愛されるすまいを作りたいと願うからです。

もちろん、ハウスメーカーや建売住宅企業の設計者も専門の技術者であり、その中でも能力の高い、誠意のある担当者もたくさんいると思います。しかし一般的には、企業内の設計担当者は個人として仕事をする建築家に比べると、依頼主の意見に異論を唱えることは少ないように思われます。工事まで請け負う企業の設計は、工事をやらせてもらうことを前提としたサービスの性格のものだからです。サービスなら、なるべく手間をかけずに本来の利益の源である工事に一刻も

早く移りたいところです。ですから施工会社の設計者は、個人に良心が満ちていても、結果としてイエスマンにならざるを得ない場面が多くあります。これは立場の違いからくる宿命ですから、企業人としては歓迎されますし、設計者も組織人である以上、そうあらねばならないでしょう。

これと対照的に、**建築家に設計を依頼するということは、情報や価値観を共有し、互いに対する一定の敬意のもとで、打合せや議論を重ねることです。人間同士としてきちんと議論するのは、イエスマンに相手をしてもらうよりはるかにエネルギーを必要とするかもしれません。もしあなたがそれが嫌なら、建築家に依頼しないほうが良いかもしれません。**しかしもしあなたが、本当に自分や自分の家族に合った家を建てたいと心から願い、そのための努力を惜しまない覚悟があるならば、建築家と議論することは苦労ではなく、むしろ楽しみに変わらざるでしょう。建築家の側も、楽しくやり取りを進める努力や観察を怠りません。その点においても建築家は専門家なのです。あなたは建築家とのやり取りの中で、これまで言葉にならないために自覚していなかったあなたの考えや思い、場合によっては人生観までもが、だんだん形になっていくのを見ることができるようになります。

## 建築家と出会うには？

先述のように、どんな建物であれ人が**自分の気持ちを十分にこめた建物を建てることは、ある意味で自分の人生観を問い直し、点検し、確認することになります。**建築家はその過程を助ける存在なのです。つまり建築家は、専門技術者であることはもちろんですが、頼れる共感者やこころの導き役ともなり得る。少なくとも心ある建築家はそうあろうと努めています。先に述べたように、建築には唯一の正解というものはありません。そんな時に一つの答えを選ぶ支えはもちろん依頼者の希望なのですが、これをどう読み取り、設計に反映するか、ということは建築家の側の人生観にかかっています。もちろん建築家はプロですから、私人としての個性を維持しながらも、住み手の個性や価値観との接点を見つけることをまず考え、依頼者の利益を第一に重んじます。しかしそれでも当然、建築家が誰でも同じではありません。建築家にもそれぞれの個性があり、それにより意見の異なる場合もあるでしょう。ですから、建築家に設計を依頼する場合の最初の大問題は実は、どの建築家を選ぶか、ということなのです。建築主と建築家は異なる人間ですから、その相違によって議論が生じることもあるでしょう。しかしそのふたつの個性の間には、**何か響き合う共通点や共有できる価値観がなくてははいけません。**そうであってこそ、議論は楽しいやり取りとなり、信頼にもとづいた互いを尊重し合う人間同士の対話が成立するのです。つまり、全く肌の合わない建築家に設計を依頼することほど、不幸でくたびれることはないということです。

紹介など、双方をよく知る紹介者がいる場合は、これは理想の建築家に一発で出会う確率が高まるでしょう。しかし、そうではない場合は、何人かの建築家に会ってみるしかありません。建築家は、すぐに設計を依頼するのではない目的であなたに、いわば「お見合い」として会うことを、決して拒みません。そこで具体的な作業が発生しなければ報酬を要求しません。しかし、建築家が設計や準備作業にかかってからあなたが途中で断わる場合は、当然そこまでの報酬が発生します。

このめやすは建築家によって異なりますが、お見合いのうちは具体的な作業を要求しないように依頼者も注意すべきでしょう。

さてこのようにして、建築家を探すのもなかなか手間ひまかかることですが、それはあなた自身の幸せを求めするために必要不可欠な作業といえるでしょう。**そのプロセスも含めて、ぜひ楽しむことをおすすめします。**もしあなたがその努力を回避し、検討を経ずして建築家の個性をよく見極めずに設計を依頼し、その結果がうまくいかなかったら　それは、建築家ではなくあなたの責任です。

心ある・誠意ある建築家はあなたに門戸を開きつつも、自分で売り込むことは避け、あなたが訪れるのを待っています。建築家は自分を選んでほしいのであり、選ぶのはあなたなのです。建築家を選ぶことは確かにエネルギーを必要としますが、もし自分と肌の合う建築家と出会い、一緒にすまいや建物を作り上げることができれば、あなたは**目に見えるもの・目に見えないもの・望んだもの・望んだ以上に予期せぬ素晴らしいものを、この世で最も楽しく充実したかたちで受け取り・経験できるでしょう。**そこに生まれるものは、虚栄や見栄とは無縁の、真にこの世で最も価値あるもの　あなただけのために生まれた財産として使われるすまい・建物なのです。